

総合計画策定に向けた大学生とのタウンミーティング（要約）

テーマ：未来の理想的な松山

令和5年7月22日（土曜日）

【市長】 皆さんこんにちは。今日は土曜日で、いろいろと忙しかったのではないかと思います。また、暑い時期に松山市役所まで足を運んでいただき、誠にありがとうございます。皆さんには本日の会の前に、ワークショップに参加していただいたと伺っています。本当にありがとうございます。松山市のタウンミーティングですが、私が市長に就任させていただいた当初から始めています。松山市は旧松山市、旧北条市、旧中島町合わせて41の地区に分かれます。例えば八坂、味酒、清水などの地区がありますが、市長の任期1期目に41地区を二巡りさせていただきました。そして、2期目では、地域別に加えて、世代別や職業別のタウンミーティングを実施しています。3期目からは、タウンミーティングの意見交換の合間に広報タイムを取り、消防士や保健師など現地現場で汗をかいて業務に携わる市の職員から、市民生活に役立つ情報を紹介させていただいています。現在4期目も継続中で、5月に高浜地区で実施したタウンミーティングが129回目で、今日の皆さんとのタウンミーティングが130回目です。松山市政の最上位の計画が総合計画です。例えば、環境や教育などさまざまな分野の計画がありますが、その上の最も大事な計画が総合計画です。現在、総合計画を作り変えていて、多くの皆さんの声をいただきながら、松山市が目指す未来の姿を描いていこうとしています。特に大切にしたいのが、将来のまちづくりの主役になる若者の皆さんの声です。小・中学生、高校生、大学生など約3万人を対象にアンケート調査を実施するとともに、高校生、大学生、そして若手社会人の皆さんと松山市の未来を語り合うタウンミーティング特別版を実施することにしました。その第1回が本日のタウンミーティング特別版です。未来の話なので正解はありません。皆さんの若者らしい自由な発想やアイデアについて意見交換をさせていただき、できる限り計画に活かしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

1班：観光・文化・スポーツ分野の未来像について

【男性】 私たちは、観光・文化・スポーツ分野の10年、20年後の理想的な松山の姿として「外も内もみんなハッピーな松山」という未来像を思い描いて、話し合いました。これからは、観光客だけでなく、松山市に住んでいる地元の方もお互いに楽しめる観光を実現できたら良いと思い、このような未来像を考えました。具体的には、「瀬戸内の魅力を広める」、「来やすくまわりやすいまち」など、4つの観点から具体的な内容を考えました。まず1つ目の「瀬戸内の魅力を広める」について、自分たちにもできることを3つ考えました。1つ目は、市民が自主的に自分の好きな場所やまち、物をSNSに載

せてくれるように促すことです。インスタグラムやエックス（旧ツイッター）、ホームページなどで、魅力を再認識してもらえるように、松山城や道後温泉、モンチッチ海岸など好きな場所を発信していけたら良いと思います。2つ目は、地域のツアーガイドができるように、学生などを対象とした講習をしていけたら良いと考えました。観光客など松山市に来てくれた方に対して、学生から松山市の良さをアピールしていけたら良いと思います。そして3つ目に、松山市には興居島や鹿島などの島が多く存在するので、そのような島々で松山市の道後温泉別館 飛鳥乃湯泉でやっているようなアート事業ができれば良いと考えました。

【女性】 2つ目に、「来やすくまわりやすいまち」について、外からの視点として、松山市や愛媛県に他地域から訪れる場合にネックになるのは、やはり交通の便で、特に新幹線が開通すると、気軽に他の地域から人が訪れやすいという意見が出ました。また、内からの視点では、観光客にも分かりやすい市内バスや電車などの交通環境について意見が出ました。松山市駅でバスに乗ろうとした際に、空港行きのバスと市内循環バスが混在しており、分かりづらいつ感じている人もいます。私自身も空港を利用してよく旅行に行きますが、空港に行くまでに市内電車とバスを利用するので、空港まで電車が直通になれば、もっと便利になると思います。また、最近はキャッシュレス決済が多いので、Suicaも利用できると便利になるという意見がありました。

【女性】 3つ目に「トップスポーツと市民が交流するまち」について、説明をさせていただきます。スポーツを活用した観光として、例えば、広島は県外にもファンがいて、トップスポーツの試合を観るためにファンが訪れます。愛媛にも多くのスポーツチームがあるので、チームがより強く魅力的になって、ファンが増え、外からも試合を見に来る人が増えるようになれば良いと考えました。内からの視点では、既に一部のイベントで実施していると思いますが、市が運営するイベントでスポーツ選手と市民が交流する機会があれば良いと思います。例えば、イベントで子ども向けの遊びを用意し、子どもとスポーツ選手が交流することで、スポーツチームに興味を持つきっかけを作ること大切だと考えました。4つ目に、「特産品の魅力向上」について話します。松山市は観光がメインの都市なので、特産品に着目しました。今ある松山市の特産品は、坊っちゃん団子や鯛などがあります。松山市の特産品や工芸品をもっと知ってもらいたい、自分たちも知りたいという意見のほか、特産品や工芸品の制作の過程をもっと知ってもらいたいという意見もありました。他には、四国遍路のお土産をもっと売ってほしいという意見や松山市の歴史に関連したお土産が開発されたら良いという意見など、松山市の歴史と産業が関連し合うような案がいくつか挙げられました。私たちに何ができるかについてですが、まず、専門分野として学ぶ学生や地域の人たちで、新たな観光の新規イベントを企画し、実施するという意見がありました。また、ツアーガイドのボランティアに参加することや、自分たちが良いと思うものをSNSに載せて発信していくこと、発信まではいかなくても、自分たちが良いと思ったモノやコトを、気軽にSNSに載せていく

という意見がありました。さらに、交通の観点では、新幹線のメリットを自分たちが知り、周りの人たちも新幹線ができたら良いと思うように働きかけていくという意見もありました。また、スポーツチームについては、まず自分たちが試合を見に行き、応援してみることが考えられました。そのほか、企業とコラボした商品作りプロジェクトの実施や自分たちがまず瀬戸内の魚をたくさん食べることに、特産品について周知していくことが考えられました。

【市長】 ありがとうございます。新幹線ですが、目指せると思います。新神戸駅を思い浮かべていただけたらと思いますが、JR 松山駅、松山市駅の他に、新幹線のための新松山駅があると駅が 3 つになってしまうので、JR 松山駅は新幹線が入れるような設計にしています。平成 22 年に市長にならせていただいて、現在、愛媛経済同友会の副会長を務めさせていただいています。当初は厳しいという感じだったのですが、だいぶ雰囲気が変わってきたと感じます。北海道や本州、九州、四国とあって、新幹線が通っていないのは四国だけなんです。B/C、ベネフィットバイコストという考え方があり、四国新幹線の利益に対する費用は 1 を上回っています。コスト以上の利益があるので、実現すれば良いと思います。新幹線ができると、大阪から松山が 1 時間 40 分で移動できるなどいろいろなメリットがありますので、しっかりと考えていきたいと思っています。また、おそらく 10 年後には自動運転が導入されているのではないかと思いますので、自動運転の動向も睨みながら、進めていければと思います。そして、実は福岡空港か松山空港かと言われるくらい、松山は空港と市内中心部が近いんです。福岡空港までは地下鉄が通っていて、松山空港まで電車を通してはどうかという話もありますが、結構リムジンバスが速く、途中で止まらないという利点があります。総合公園の下まで電車を延伸する計画はあるんですが、そこから空港まで線路を伸ばしたら途中で止まらないのかということになり、電停を作らなければいけなくなると、難しいところがあります。沿線人口や空港利用者の増加で B/C も変わってくるので、そのあたりも考慮しながら進めていきたいと思っています。

2 班：健康・福祉分野の未来像について

【女性】 私たちが考える、健康・福祉分野の 10 年、20 年後の理想的な松山の未来像は、「誰ひとり取り残さない すてきな松山」です。具体的には 4 つの内容があります。まず 1 つ目は、「地域みんなで子どもを育てる」です。例えば、子育てが終わった高齢の方たちに、子育てのアドバイスをもらったり、悩み事を相談できるような機会があれば良いと思いました。また、大学生や高校生など学生が、小学生などの子どもたちに勉強を一緒に教える機会があれば良いと思います。2 つ目に「多世代交流が盛ん」についてですが、地域でのお祭りや行事がないと、多世代間の交流があまり行われなと思うので、これらをもっと増やせば、多世代交流が盛んになると思いました。

【女性】 3つ目の「社会資源の活用」について話します。社会資源と聞くと、公民館や図書館を思い浮かべると思いますが、私たちの考える社会資源には、人的資源も含まれています。人的資源には、先ほども話に挙げりましたが、地域の方々との交流や高齢者と子どもの関係も含まれています。また、既存の窓口や機関を知らない人が多くいます。これらを知っていれば、時間やお金、場所、施設などをもっと有効に使えたのにといいこともあると思います。そういう人のために、もっと説明会などがあれば良いと思います。

【男性】 4つ目に「バリアフリー」が挙げられます。例えば、段差や階段にスロープを設けるといった物理的なバリアフリーはもちろんのこと、心理的なバリアフリーも含まれると考えています。子どもから高齢の方、さらに障がいのある方まで、偏見や差別的な意識、勘違いを解消するために、交流などを通じて心理的なバリアをフリーにできる機会を設けることが、バリアフリーを進める上で大切なことだと考えました。

【女性】 以上の「地域みんなで子どもを育てる」「多世代交流が盛ん」「社会資源の活用」などを実現するためには、地域コミュニティの促進が大切だと思います。そこで、私たちにできることについて2つ考えました。1つ目は、地域運動会など地域のイベントやボランティア活動に積極的に参加することです。大学生として、自分たち自身が運営に携わることもできると思いました。そして2つ目に、地域のイベントやボランティアに関する情報をSNSで発信することも自分たちにできることだと思いました。

【市長】 ありがとうございます。皆さんと気持ちは一緒だと思いました。うちの子どもが社会人2年目と5年目で、皆さんが少し年下になるのですが、世代が違うのに、想いは一緒なんだ、嬉しいなと思いました。コロナで人の繋がりが薄くなり、ウィズコロナで繋がりを元に戻していきたいと思いますが、子育てをお父さんとお母さんだけで抱えることになったら辛くなってしまいます。また、おじいちゃん、おばあちゃんの介護も抱えることになると辛くなってしまいます。子育ても介護も、人の繋がりがあれば助かると思います。今、大学生で1人暮らしをしている方もいると思いますが、防犯面・防災面でも繋がりは大事です。皆さんも思っているように、今後の総合計画でも繋がりを大事にしていきたいと思います。私からも皆さんに話をお伺いしたいのですが、松山市役所でさまざまな取り組みをしていて、皆さんからすると知らなかったということも多くあります。直轄の秘書広報部を作っているいろいろな発信をしているのですが、それでもみんなに届くわけではないので、何か良い方法があれば教えてもらえませんか。

【女性】 松山市の広報番組や広報紙も読ませていただいているのですが、見る人は見るし、見ない人は見ないと思います。そのため、例えば、子育て世代には、母子手帳を渡す際など全員と関わる機会に、何かあったらこの機関を頼って欲しい、このホームページに目を通してほしいといったワンクッションの宣伝があれば良いと思います。

【市長】 ありがとうございます。

【男性】 戸建て世帯のみになるかもしれませんが、回覧板の中に資料を挟んで回すこ

とができれば良いと思います。

【女性】 情報発信にあたって、世代によってよく目にする媒体が異なると思います。高齢者ならテレビでCMを見たりする機会が多く、CMで市役所の広報を目にすることができますが、若者はテレビを持っていない人も多いので伝わらないと思います。その場合、インターネットの活用は重要で、Instagramやエックス（旧ツイッター）だけでなく、ユーチューブやティックトックのような短い動画を活用している企業もあり、動画の活用も重要だと思います。

【市長】 ありがとうございます。

【司会】 テレビが家にない、またはテレビは家にあるがほとんど見ないという人は手を挙げていただけますか。

(21人中8人が挙手)

【市長】 ありがとうございます。

3班：交通・環境分野の未来像について

【女性】 それでは、交通・環境分野について発表させていただきます。私たちは、「地域の課題解決 先進都市 松山」を理想的な未来像として発表させていただきます。人口減少や人口流出など地域が抱える課題はさまざまですが、日本全体で同じような課題を持つ地域が見られることも周知の事実かと思えます。もちろん松山市でも、さまざまな課題解決に向けて対策がされていると思いますが、私たちが注目したいのは、「地域固有の資源を活かしたまちづくり」です。現在もハード・ソフト両面で、道後アート事業や『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想、俳句などさまざまな活動がされていると思います。そうした中で、私が少し気になっているのが、松山市中心部の整備が進んでいることです。ロープウェー街や花園町でハード整備がだんだん進んでいます。松山市全体を考えるとすごく広域だと思います。三津浜や久谷など広域でも、文化のまちということを意識できたら良いと思います。中心から松山市の広域に向けて、ハード、ソフト面の整備がもっと進めば良いと思います。次に環境分野について、話させていただきます。私たちの班で、特に環境について何が問題か考えたときに、「空き家問題」について挙げさせていただきました。自分が調べた中なので、もしかすると、もっと新しい情報が出ているかもしれませんが、愛媛県の平成30年度の土地統計調査によると、愛媛県の空き家の数は12万戸程度ある状態で、2次住宅と言われる、仕事で別の家を持っているケースを除けば全国で5位という状況なので、愛媛県は他県よりも比較的空き家が多い状況にあると思います。グラフを見ると、毎年少しずつ空き家率が上がっている状況で、これからも空き家が増え続けるという課題があると思います。その中で具体的にどのように解決していけば良いかという話になったのですが、空き家を活用するための対策を行うことがまず大事だと考えています。例えば、空き家を他のお店

として開発したり、その地域の憩いの場として広場に作り変えることなどが挙げられました。また、これから空き家を増やさないための対策として、家を買ったり、土地を買ったりする時に、どういう状況になったら自分の権利がなくなるかという条件を、国や県が提携して契約を結ぶことなどを考えました。居住者が亡くなったら、この家は空き家になり、国や県のものになるというように、正当に誰のものかが分かる仕組みができれば空き家問題は解決していくと思います。

【男性】 私からは交通について話させていただきます。まず挙げられるのは、「公共交通機関の利用促進」です。松山はコンパクトシティを目指していますので、人が歩いて暮らせるまちづくりも含めて、「公共交通機関の利用促進」が大事だと思いました。利用を促進するために松山市か県かは分かりませんが、自治体からの費用援助があれば良いと思います。例えば、伊予鉄の郊外路線などは、個人的に利用する際に少し高めだなど思っていて、自治体からの費用の援助があると良いと思いました。また、「自転車の交通マナー」についてですが、私たちが自転車のマナーやルールに関する情報を発信したり、呼びかけることも重要ですが、自転車を止められる駐輪場をもっと作ることも重要なこととして挙げられると思いました。

【女性】 私たちに何ができるかについてですが、まず自分たちが暮らすまちについて知ることが大事だと思います。先ほど、自転車のマナーについても意見があったのですが、まずは自分たちが現状や情報を知ったり、自分の気になる情報をインターネットなどで調べることが第一歩になると考えています。次に、情報発信とアクションについてですが、自転車のルールをちゃんと守ったり、ボランティアなどで自分たちがまちの問題を情報発信していければ良いと考えています。大学には、ボランティアセンターなどがあるので、そのような所と連携して、大学生や小・中学生、高校生も何かボランティアができれば良いと考えました。

【男性】 これらを総括すると「ICTの活用」が大事だと思いました。今、国もデジタル田園都市国家構想などで、どんどんICTの活用を進めていますので、松山市が全国に先駆けて日本の代表となるようなICTの活用が進んでいる都市になることができれば良いと思います。先ほど市長から新幹線の自動運転の話が出ましたが、路面電車や伊予鉄の郊外電車なども、どんどん自動運転にしていければ良いと思いました。自動運転によって、雇用の問題がおそらく出てくると思うので、解雇した方に新しく学び直しのような形で支援していくことも大事だと思いました。単にICT化を進めるだけでは、おそらく従来の方法で行っていた人たちからすると、変化が激しくて格差ができてしまうことも懸念されるので、手厚いサポートを合わせて考えていけば良いと思います。ICT化が進むことで、コンパクトシティを進めるだけでなく、渋滞や事故のリスクを軽減して、地域の課題解決 先進都市、ひいては、日本の課題解決を進める代表都市に松山がなれば良いと思いました。

【市長】 ありがとうございます。難しい顔をして聞いていたのは、今すごく頭を回し

ていて、怒っているわけではないので、気にせんとってください。職員の皆さんも真剣に聞いていますので、私が気付かないところも、職員の皆さんが後で反映してくれると思います。悩みながら聞いていたのですが、空き家問題について、今まで対応してきた中で難しいのは、個人の所有物であることです。私たち行政は、皆さんから税金をいただいて取り組みを進めているので、個人の所有物に税金を入れて直そうとすると、それならうちの家も直してくれという話になるんです。ここが難しいところで、空き家の流動性がなかなか進まない。でも、三津浜では、空き家を借りたい人と貸したい人をマッチングするミツハマルという場所を作って、だいぶ取り組みが進んでいて、いろいろ工夫しながらこれからも取り組んでいこうと思います。空き家の問題って松山だけが悩んでいるわけじゃないんですよ。北海道でも九州でも、全国で悩んでいるので、国土交通省に、地方からするとこういう風にしてくれたら空き家問題について助かるんですけどという要望も出して、解決に向けて取り組んでいければと思います。2班の発表の際にも思ったのですが、やはり、市の情報を学生さんと連携して発信していくことができないかと思います。テレビを見ていないという人も結構多く、情報学部を設置する動きも出てきているので、総合計画の中で情報学部とうまく連携をしながら、授業の中で松山市の情報を発信していただくなどの取り組みも考えていければ良いと思いました。

4班：子育て・教育分野の未来像について

【女性】 私たちは、子育て・教育分野について、理想とする10年、20年後の松山の未来像について話し合いました。松山市の将来を担う子どもたちを中心に考えて、家庭や学校だけでなく、地域全体で支えられるようなまちにしたいという考えから、「子どもがまんやかな松山」という未来像にしました。具体的には、まず「子どもの笑顔を地域で守り育てることができるまち」にしたいと考えました。例えば、シルバー人材センターの方による見守り活動の強化や大学生による学習支援ボランティアなどが挙げられます。児童館に来るのは子どもたちとその保護者だけだと思いますが、地域の皆さんが集まって、交流できる場所があれば良いと思いました。

【女性】 2つ目に、「子どもが満足に遊ぶことができる公園」について話をさせていただきます。近年、公園でのボール遊びが禁止されていて、子どもたちが外でのびのびと遊べる場所が制限されているように感じます。そこで、ボール遊びができる公園を増やしたり、ボール遊び以外にもサッカー場やテニスコートなどを設置することで、子どもたちが制限を受けることなく、のびのびと遊ぶことができると思います。他にも、運動やスポーツのできる屋内施設を作ることで、熱中症などの体調不良を気にせずに保護者の方も安心して子どもたちを連れて利用できるだけでなく、保護者の方の憩いの場になるなど地域の方と交流できる場所が増えると考えます。

【男性】 3つ目に、「共働きでも子どもを育てやすいまち」についてです。最近、両親が共働きの家庭がとても多いと思います。10年、20年後の松山も両親が共働きの家庭が多くなっていると思うので、子どもを育てやすいまちにするために、先ほどと少し重なるんですけど、お子さんを預ける場所として児童施設や保育所、児童クラブのほか、スポーツ施設を増やすことで、人との関わりが増えると思いますし、保育士さんやご両親の負担の軽減にも繋がると思います。スポーツ施設を増やすために、私たちに何ができるかという、すぐにできることといえば、ボランティアへの参加が一番早いと思いました。具体的にどんなボランティアに参加するのと言いますと、募金活動が一番良いと思いました。募金活動でスポーツ施設を作る資金を集めることで、子どもを育てやすいまちに繋がってくると思いました。

【男性】 続いて、「オンラインを活用した子どもたちの交流があるまち」について話させていただきます。オンラインを活用した子どもたちの交流として私たちが良い方法だと考えたのは、公民館を活用することです。公民館を活用した双方向のオンラインでの交流を促すことで、ご高齢の方や子どもたちが一緒になって遊んだり、学んだりできる場所を提供できると考えています。現在、首都圏ではデジタルトランスフォーメーションを進めるため、デジタル公民館という取り組みがされており、動画配信やデジタル技術を使ったイベントなどが行われています。地域の歴史や星空の観察といった公民館が作成する市民講座の動画を投稿サイトなどで無料閲覧できます。松山市で検討する際の特徴として、双方向という点を強調したいと思います。例えば、ズームなどの機能を使って、ご高齢の方とお子さんが画面を通して向き合って、トランプや将棋などといった遊びや硬筆講座を行うなど、さまざまな形で実施できると考えています。

【女性】 最後に、5番目の「経済・所得格差で夢をあきらめないまち」について話したいと思います。私たちが掲げている「子どもがまんやかな松山」という未来像の中には、子どもたちが自由に教育を受けたり、自由に行動できるということも含まれています。そのため、経済・所得格差で十分な教育を受けられなかったり、自由にのびのびと子どもたちが生活できないようなまちは変えていきたいと思っています。例えば、近年、奨学金の返済ができないことがすごく問題視されていると思いますが、金銭面で何か援助やサポートができれば、子どもたちがのびのびと学ぶ機会が増えて、学業面でセーブされないと考えています。また、先ほど公民館の活用の話もありましたが、公民館で塾のように子どもたちが学べる場を設けるなどして、私たち自身もボランティアのような形で支援していくこともできると考えています。

【市長】 今4班から、子育て・教育分野について、子どものことに着目して発表してもらいました。今まで松山は、移住・定住で結構良い成績をいただいているんですが、大人に対して松山は全国の中でも家賃が安いんですよ、すごく住みやすいんですよとPRしてきました。全国には坂が多いまちがありますが、坂が多いまちだったら、松山みたいに自転車で移動するのが大変ですよとか。雪がすごく積もる所だったら、雪かきを

しないといけなくて大変ですが、松山は雪が降っても積もることはほとんどないですとか。大人に向けて、松山の住みやすさを訴求してきたんですが、もっと子どもの方にウエイトを置くことも大事だと意識をするようになりました。東京で移住・定住の話をさせていただいていると、若いお父さんとお母さんは、子どもの教育環境のことについて聞かれるんですよ。中学や高校とかどうですかって聞かれて、公立の中学校はもちろん、私立の中学校でこういう所がありますとか、私立の高校でこういう所がありますと話をすることがあります。公立の高校でこういうことをしている学校がありますという話をすると、結構教育熱が高いんですね、そういう立派な学校もあるんですねって言われるんです。ですので、もう少し子どものことを意識しながらやっていくことも大事だなということを皆さんの発表のおかげで改めて感じています。また、JR 松山駅の周辺に子どもが思いきり遊べる場所があって、少し遠くからでも車で来れると良いと思うんですが、すぐそばに松山総合公園があるとも思うんです。悩ましいのが、公共施設は作ったらマネジメント管理のお金が必要なんですね。すると、皆さんの世代で管理するためのお金が必要になります。その点も考えながら進めていかないといけないので、悩ましいなと思いながら聞いていました。真剣に考えます。ありがとうございました。

5 班：買い物・就職分野の未来像について

【女性】 私たちは買い物・就職について、誰もが楽しく買い物でき、やりがいを持って働ける「日本一 HAPPY な松山」を未来像として考えました。買い物などのプライベートも1日のうち長い時間を占める仕事も充実していれば、ハッピーになれると考えたからです。具体的には4つありますが、私は「松山で就職する人が増加」について発表します。松山で就職する人が増えるには、松山の企業の良さをみんなに知ってもらう必要があります。私たち学生が企業の良さを知るには、インターネットで情報を集めるなどさまざまな方法がありますが、特に有効だと考えるのがインターンシップです。なぜならば、インターンシップで実際に仕事を体験し、調べただけでは分からないことを知ることができるからです。私たちは気になる松山の企業のインターンシップに積極的に参加しようと思います。

【男性】 次に、「福利厚生がしっかりしている」という点について話をさせていただきます。私たちの班が考えた具体例を挙げさせていただくと、通勤手当の支給があったり、育児や介護休暇の取得がしやすい、有給取得率が高いことなどが挙げられます。母が公務員なんですが、公務員の有給取得率が少し低いと思います。また、特別休暇の導入が少ないので、夏季休暇や結婚休暇、忌引き休暇、転勤休暇などさまざまな休暇を取れるようにしていただきたいと思います。さらに、在宅ワークのできるネット環境の整備やフレックスタイム制の導入で、就労時間の自由化が図られていることなどが挙げられました。これから就職する立場としても、このような企業や職場に就職したいですし、

これらが全て達成されることで、近年問題になっている過労やうつ病などの改善に繋がると考えています。また、私自身が将来結婚して子どもが生まれた際に、育児休暇を取って育児に積極的に参加したいと考えているのですが、同じようなことを考えている方も少なくないと思うので、福利厚生が整うことは多方面に大きな利益を生むと考えました。

【男性】 次に「地元の人のお買い物で、地元の商店街が活性化」についてですが、大街道など地元の商店街に、もう少しいろいろな店があったら良いと思いました。

【女性】 最後に、「お買物が便利」ということで、アウトレットやサイゼリヤなど全国的に展開されている施設で松山にない施設を作ったら、人が集まるのではと考えました。私たちにできることとして、直接できることは少ないと思うんですが、SNSで企業にこういう施設が欲しいという希望を伝えることはできると考えました。さらに、AIなどを導入した無人のお店で、松山のどこにいても欲しい物が24時間届くサービスを利用できるお店があったら、お買物が便利になると考えました。

【市長】 皆さんに聞いてみたいのですが、実店舗じゃなくて、インターネットでお買物をしたことある人は手を挙げてみてください。

(21人中9割程度が挙手)

【市長】 ありがとうございます。次に、実店舗で買うよりもインターネットで買う人が多いという人がいたら、手を挙げてみてください。

(21人中半数程度が挙手)

【市長】 ありがとうございます。そうですね。オンラインとリアルのうつろいも見ながら取り組んでいかなければならないと思います。大街道・銀天街の長さが大体1キロなんですけど、城下町でお城の麓にアーケード商店街があるのが松山の特徴です。昔は、中心部に商店街がありましたけど、空き店舗ばかりで、もう商店街がなくなっている所もあります。松山の中心商店街は全国の中でも空き店舗率が低かったんですが、コロナの影響もあり、どこの商店街もそうであるように空き店舗が今増えています。人が動き出すにつれて空き店舗率も下がってくるとは思うんですが、どこまで民間に任すのか、どこまで公がリードしていくのかというのは悩ましいと思います。コロナ後に、こういう店が欲しいという声を受けて、ある程度公がリードすることも必要なのではないかと、この声が出てきていることも事実なんです。民間の方はすごくマーケティングをしているので、民間としての動きはあると思います。これだけ若い人がいて、これだけお年を召した方がいて、日中の人口がこれだけ、夜の人口がこれだけでこういう店を出したらこれぐらい受けが良いだろうというマーケティングをされているので、店は出てくると思うんですが、公の役割も考えながらやっていけたらと思います。「幸せ実感都市 松山」を今まで将来都市像として取り組んできて、前市長さんのときに「坂の上の雲を目指して」というフレーズがあったんですが、「日本一幸せなまちを目指して」など、そういうようなやり方もあるなど、皆さんの発表を聞いて思いました。まだどんな風にな

るかは分かりませんが、今日いろいろな刺激をいただいています。本当にありがとうございました。今日の会をやって良かったと思えました。今日の会は台本がないんですよ。台本がないから、どんな意見が出てくるか分からないし、僕もそれに答えないといかんので、ドキドキではあるんですが、ヒントがあったと思えました。ありがたいことに、今日、職員の皆さんも来ていますけれども、ずっと「市民目線を大事にしましょうね」「現地現場を大事にしましょうね」と職員に言ってきて、みんなが頑張っているんです。国・県・市がありますが、一番近い役所って、市じゃないですか。皆さんが国の財務省に行ってきたとか、農林水産省に行きましたということは、あんまりないですよ。戸籍や住民票などを取り扱う、市町村は基礎自治体というんですが、時にはやっぱり厳しいことを言われることもあります。でも、距離の近さを手放してしまったら、僕たちの存在意義はないじゃないですか、頑張らしましょうよと言ってきました。市民目線を大事にしましょう、現地現場を大事にしましょうとずっと言ってきて、今日も多く職員さんが出てきてしっかりと聞いています。これからの総合計画を作る上でまさにヒントの元になるので、今日のタウンミーティングをやらせていただいて良かったと思えます。まだ話を聞いたばかりなので、今明確な答えができなくて申し訳ないです。ぼんやりとした言い方しかできないですが、確実にヒントになります。今日は大学生の方とタウンミーティングをさせていただいて、今後、高校生や若手社会人の方とさせていただき反映していきますが、絶対に松山をより良くして、次の世代に引き継いでいくんだと思っています。僕らも頑張るんだけど、皆さんも松山のために、直接でも間接的にも良いので、考えて動いていただけたらと思います。最後に、防災のことについて話をさせていただきます。防災についても松山市として、行政として、やるべきことを一生懸命やっています。例えば、坊っちゃんスタジアムの下に集中備蓄といって、市民の皆さんの備蓄物資を集中的に置いています。また、各公民館などには分散備蓄をしているんですが、今皆さんに、1週間分の水や食料、生活物資を用意してくださいとお願いしています。行政でいくら一生懸命備えたとしても、限界があるんです。行政として一生懸命頑張りますが、若い皆さんが頑張ってくださいとまちの力になるんです。松山の力になるんです。今日、1時間半出てきていただいて、その前にもワークショップで皆さんの大事な時間を使わせていただいています。せっかくの機会なのでこれからも松山のことを考え続けていただけたらと思いますし、動いていただけたらと思います。本当に良い機会になりました。ありがとうございました。

—了—